
それでも私はあなたを夢と思う

かめれおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それでも私はあなたを夢と思う

【Nコード】

N3139M

【作者名】

かめれおん

【あらすじ】

人の死は突然訪れます。

そのときの心情です。

突然聞かされたあの子の死は、
当然受け入れることが出来るはずもなかった。

電話越しに聞こえる彼女の少し笑う声が
余計にそう思わせたのかもしれない。

別にあの子とはなんでもないが、よく遊んでいた子だった。
しかし、彼女は冗談を言い合うタイプの人でもない。
とりあえず、昼過ぎにお焼香を上げに行くこととなった。

線香の香りと、お昼なのに灯しているろうそくの光
大きな写真。

それが偽者でもなんでもないことは、すぐにわかった。

一緒に遊んだ思い出話を語りながら、写真を見たり私が撮った写メ
を見せたりした。

確かに撮ったのは私なのに、
それが本当に存在していたものなのか不思議なくらい

軽かった。

あの子の死が、いまいち結びつかなかった。

明日、あの服買いに行くんだ、っていう話をするかのよう
にお仏壇の話をする。

人は死んだらどこへ行くんだろう。
そんなことを、考えて、

そして、笑う彼女が心配だった。
死を悔やむより、生きているその子のほうが心配になった。

私は、薄情な人間なのだろうか？

この手に触れたはずなのに、今は存在しないあの子を
夢の中で会った子のように感じてしまう。

メールに、また思い出を巡ろうと入っていた。

顔もどんなこととしてたかも、思い出せるのに、

それでも私は夢と違ってしまふ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3139m/>

それでも私はあなたを夢と思う

2011年10月4日20時37分発行